

安全データシート

改訂日:2022年3月22日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
会社名
住所
電話番号

クリスタルバイオレット
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
BC0168

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口):区分4
発がん性:区分2
生殖毒性:区分2
特定標的臓器:区分2(消化器/全身)
(反復暴露)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

警告

飲み込むと有害

発がんのおそれの疑い

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

長期にわたる又は反復ばく露による消化器、全身の障害のおそれ

眼刺激

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

個人用保護具を使用すること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

粉じん、蒸気、スプレーの吸入をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲みこんだ場合、口をすすぐこと。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

注意書き

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

化学式

化学物質を特定できる一般的な番号

官報公示整理番号(化審法/安衛法)

化学物質

クリスタルバイオレット

 $C_{25}H_{30}ClN_3 \cdot 9H_2O$

CAS RN:548-62-9

(5)-1971

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

化学物質が除去されるまで、多量の水と石鹸で洗うこと。

医師の診断、手当てを受けること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

発がんのおそれの疑い、生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

飲み込んだ場合

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

5. 火災時の措置

適当な消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	噴霧水、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、土 該当情報なし。 火災時に刺激性、毒性、腐食性のガスを発生するおそれがある。 消火水が汚染を引き起こすおそれがある。 該当情報なし。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
特有の消火方法 消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 河川等に排出され、環境への影響をおこさないように注意する。 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。 危険でなければ漏れをとめる。 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法及び機材 二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	
技術的対策 (局所排気、全体排気) 安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気装置を設置する。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じんを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避 衛生対策	
保管 安全な保管条件	容器を密閉して冷乾所にて保存すること。 施錠して保管すること。 ポリエチレン
安全な容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置 許容濃度(出典)	
管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH	未設定 未設定 未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質 物理状態	金属光沢のある粉末
色	暗緑色
臭い	無臭
融点・凝固点	215°C(塩化物)
沸点、初留点及び沸騰範囲	該当情報なし。
可燃性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	2.5~3.5 (20°C, 10g/L)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	4000mg/L(実験値)(25°C水)(塩化物)
n-オクタノール/水分分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	1.93E-14mmHg(推定値)(25°C)(塩化物)
密度及び/又は相対密度	1.19g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	該当情報なし。
蒸発速度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	

反応性、化学的安定性		常温、常圧下で安定
危険有害反応可能性		類似した官能基を含んでいる物質は、高温で分解する可能性がある。
避けるべき条件		該当情報なし。
混触危険物質		強酸及び酸化剤
危険有害な分解生成物		分解まで加熱した場合、酸化窒素と塩化水素の中毒臭気を放出する。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口：	ラットLD50=420mg/kgであることから、区分4に分類した。
		経皮、吸入：該当情報なし。(分類できない)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		該当情報なし。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		該当情報なし。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		該当情報なし。
生殖細胞変異原性		適切なin vivo 変異原性/遺伝毒性試験データがないため、データ不足で、分類できない。なお、in vitro 系の試験では、「CHO細胞を用いた染色体異常試験で陰性」「エームス試験では結論付けできず」であった。
発がん性		EUがCarc. 3に分類しており、また、「マウスの発がん性試験で雌雄に肝臓腫瘍増加」、「ラットの発がん性試験で雌雄に甲状腺濾胞細胞腺がん増加」がみられており、区分2とした。
生殖毒性		妊娠ラットへの強制経口投与試験における母動物毒性がみられる用量で胎児に水腎症、水尿管症を含む奇形、過剰肋骨などが観察された」との記述があることから、区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		該当情報なし。
特定標的臓器毒性(反復暴露)		「ウサギに経口投与した試験で呼吸困難、チアノーゼ、下痢がみられた」とする報告が得られており、消化器/全身への影響が標的臓器と考えられた。なお、この結果は区分1に相当する用量であったが、データがPriority 2の評価書から得られており、区分2に相当する。以上から、区分2(消化器/全身)とした。
誤えん有害性		該当情報なし。
12. 環境影響情報		
生態毒性		該当情報なし。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壌中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国際規制		
国連番号		—
品名(国連輸送名)		—
国連分類		—
容器等級		—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷ぐずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		—
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔ヘキサメチルパラロースアニリンクロリド(別名クリスタルバイオレット)〕[施行令別表9](2024年(令和6年4月1日)以降)
		危険性又は有害性を調査すべき物〔ヘキサメチルパラロースアニリンクロリド(別名クリスタルバイオレット)〕(2024年(令和6年4月1日)以降)
消防法		危険物に該当しない。
16. その他の情報		
参考文献		職場の安全サイト(厚生労働省HP) GESTIS Substance Database

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。